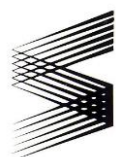


令和3年度

学校だより  
令和4年 1月7日



# さつきが丘

1月号 第344号

## やわらかなアタマで

学校長 金子 博美

新しい年を迎えました。皆様、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。感染症拡大に関しては、心配な日々が続きます。職員一同、子どもたちの安全を第一に、だれもが安心して過ごすことができるよう努力して参ります。本年もどうぞよろしくお願いたします。

さて、先月、冬休み前の子どもたちに、今年度3問目の「校長先生クイズ」を出しました。

5個のリンゴを7人で公平に分けます。どうすればよいでしょうか。

問題を掲示した日の帰りには、さっそく2通の答えが回答ボックスに入っていました。次の日に1通、その次の日には2通・・・24日までに12通の答えが集まりました。なかなか「正解」が見つからず直接私に聞いてくる子もいました。締め切りは、1月14日です。

このクイズの取組は、昨年度6月1日の学校再開の時、臨時休業や時差・分散登校の中でも子どもたちと何か同じ楽しさを共有したい、一堂に集まることがなくても一緒に楽しめることをしたいと考えて始めました。

初めてのクイズは、「わたしたちの学校は、さつきが丘小学校です。さて、横浜市立小学校の中で、学校の名前に花の名前が入っている学校は、いくつあるでしょう。→①5 ②10 ③15」

という三択問題でした。その後、夏休み前に1問、冬休み明けには学年別に3問、合計は3回行いました。不定期ながら毎回参加している子どもたちもいて、答えの横に「いつも楽しみにしています」

「今度はもっと難しい問題にしてください」など一言を添えてあることも多くなりました。答えもちろん大切ですが、見たり聞いたり調べたり考えたり、答えにたどり着くまでの過程を楽しめるようになれば、きっと学習の面白さも格段にあがります。子どもは元来「やわらかなアタマ」をもっています。けれども子ども自身はそれほどそのことを実感していないかもしれません。今回、三択形式ではなく記述にしたのも、そのためです。「本当に自分たちのアタマはやわらかい」と気付き、そのよさを生かして問題解決だらけの日常に好奇心をもち、楽しもうとする力を育てたいと思っています。

今求められる「学校づくり」には、知恵を出し合い、工夫を重ねることが欠かせません。30周年の取組も、子どもたちの「やわらかなアタマ」から生まれた豊かな発想がたくさん活動を創り、およそ半年間にも及ぶ活動期間を支えていたと感じています。私自身、「やわらかなアタマ」をもち、子どもと共に「学校づくり」を実践していきたいと思っています。

ところで、今回のリンゴの問題、皆さんはどのように考えますか。

